

アフリカに群馬県発のコールドチェーン革命を！

(株)MARS Company (高崎市)

－日本の中小企業の優れた技術で新鮮な農水産品を届ける－

国際協力機構（JICA）は9月2日、群馬県高崎市の株式会社 MARS Company（松井寿秀社長）による「高度冷蔵保存技術導入による農水産品の高付加価値化に向けた案件化調査」を仮採択としました。

日本のタコ輸入の約3割を占めるなど、知る人ぞ知る漁業国であるモロッコでは、コールドチェーン（生鮮食品などを生産・輸送・消費の過程で途切れることなく低温に保つ物流方式）の未整備などから腐敗・鮮度低下によるロスが発生し、大きな損失となっています。

(株)MARS Company は高度冷蔵装置（KuraBan）と人工海水氷の製氷機（sea snow）を製造・販売する高崎市の中小企業です。上記製品をモロッコの漁港等に導入すれば、農水産品の品質低下とロスの発生を軽減させ、地元業者の収入向上・競争力強化に貢献することが期待されます。今回の調査では、上記製品導入の ODA 案件としての実現可能性を調査します。



KuraBanで2週間保存したキュウリ(中央)



sea snowで24時間保存した鮮魚(下)

この調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」として実施されます。

案件化調査は、途上国の開発ニーズと日本の中小企業の優れた製品・技術等とのマッチングを行い、製品・技術をODA事業に活用するための情報収集・事業計画立案等を支援することを目的としたもので、2012年度から実施されており、2014年度は本年5月に公示を行いました。

176件の応募のうち26件が仮採択され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

以上